

21世紀の伝統工芸品の在り方

Ways to deal with 21st century Traditional crafts

中村 弓真

指導教員 氏家 和彦

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 生活文化マネジメント研究室

キーワード：和・伝統工芸品・提灯・行灯

研究目的

生活する上で欠かせないあかりは近代発展によって形を変えていった。そのあかりの一つ、日本の伝統工芸品であり、あかりの存在を大きく変えた提灯は現在、電力の普及と職人の減少により衰退しつつある。本研究では忘れられてしまった提灯の文化を再認識させ、現代の生活に即したカタチで提案し、親しみを持ってもらう一歩になる製品を開発する。また、2020年東京オリンピックに向けて海外の人々に提灯を知ってもらい日本の文化に興味をもってもらうことを目的とする。

事前調査

伝統的工芸品産業振興協会によると、ここ数年で伝統工芸品の職人は各分野で減少傾向にある。原因として昔は技術の習得に時間がかかっても後継者がいれば問題なかったが、その担い手自体が少なくなっているという現状がある。



1.伝統工芸品の減少推移

今回は伝統工芸品の中でも減少傾向の激しい提灯、行灯等のあかりを取り扱うこととした。

1.日本のあかり博物館

長野県小布施にある博物館を訪ね、あかりのルーツを辿った。人が火を手に入れてから現代までのあかりの進化過程では、燃料別に「火」「ガス」「電気」の順に大きく3つに区分できるが江戸時代に使われていた火によるあかりの考え方はそれまでとは異なり、当時の娯楽をより楽しむための工夫がなされた提灯や行灯など、モノを照らすという機能とともにやわらかいあかりの情緒を重んじる日本人ならではの気配りがなされていることがわかった。

2.まちだ葬祭店

祭り提灯の制作を多く手がけているまちだ葬祭店に伺い、実際に販売を行なっている提灯の制作作業を見学した。現在発注を受ける提灯の多くは、仏前の供物や祭礼、居酒屋等のネオンサインとして使われている。提灯の制作工程は骨掛け、紙張り、絵付けなど職人による手作業で一つ一つ丁寧に作られており、素人では到底成せない技が随所に施されていた。

コンセプト及びアイデア展開

「現代の娯楽提灯」

行灯や提灯等のあかりはいずれも、生活する上

で必要不可欠なものであり、それに加えて生活を楽しく豊かにするものだった。

しかし、あかりの発展により本来の照らす用途が不必要になったことで、生活で使われることが難しくなってしまった。そこで、風情あるものとされていた提灯を現代の娯楽と結びつけ、若者が魅力を感じるものでまずは手に取ってもらい、再び本来の提灯の良さを知ってもらう糸口となるような媒体を考察した。

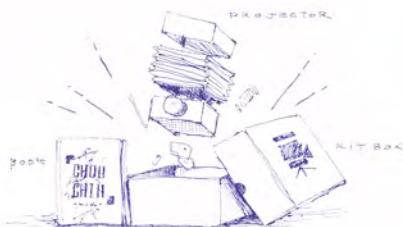
現段階での提案

小冊子

書店や空港で販売する日本の文化を伝える小冊子の制作を行う。あかりの歴史から現代での使われ方、提灯職人の作業風景やインタビュー、絵付け体験などを一冊にまとめ、日本人に知られていない日本のあかりの現状を理解してもらう。

付録

日本のあかり美術館に訪ねた際に展示されていた、レンズ入り有明行灯(書見行灯ともいう)から着想を得て、凸レンズを使った簡易的なプロジェクターを製作できるキットを合わせて提案する。現代人の興味をかきたてるには現代のあかりを用いた商品がもっとも適切だと考え、スマートフォンの画面を大きく表示することのできるプロジェクターを考案した。



今後の展開

引き続き本誌制作を行い、半年間に渡り販売することを目標とし第3号までの構想を練るとともに現制作中の第一号冊子およびプロジェクターキットを空港などで販売する国外版の制作にも取り組む。また第一号付録のプロジェクターで投影す

る伝統工芸のプロモーション映像の制作も考えている。

参考文献

- ・伝統工芸 青山スクエア : 伝統的工芸品産業振興協会, 2016, <http://www.salesio-sp.ac.jp/index.html>, 2017,7,10
- ・KARAKURI JAPAN : 日本の伝統工芸はなぜ衰退するのか?私たちにはなにができるか?, 2016, <https://shikinobi.com/traditionalcrafts-info>, 2017,7,10
- ・四季の美-SHIKINOBi- : 伝統工芸品とは?伝統工芸業界の現状と生産高推移、職人後継者について, 2016, <https://shikinobi.com/traditionalcrafts-info>, 2017,7,10